

『市民が関与する グローバル公共政策の在り方』

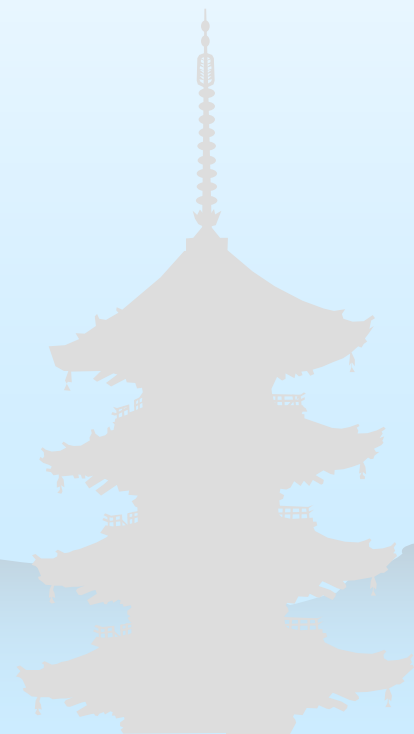
グローバル政策イニシアティブ (GPI)
キックオフ東京フォーラム (パネル I)

2007年7月21日

於 国際大学グローコム

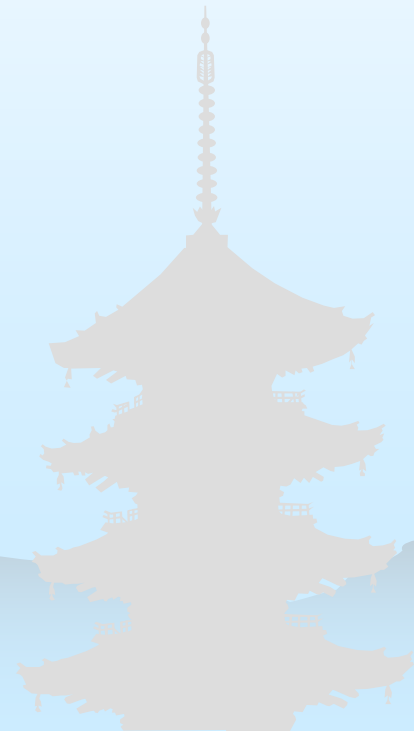
丸楠 恭一

(政策空間 / CEPEX / 目白大学)



議論の展開

- 1) 深化するグローバル化と公共政策デザイン
- 2) 新しい動き？
- 3) 議論の材料として・・・



1) 深化するグローバル化と公共政策デザイン

- * 多方面の専門家や異なるアクターの多面的政策関与が必要
- * 日本の場合、特定の政策分野の専門家すら、なかなかキャリア形成が難しい。
- * 大学に「専門家」はいるが・・・
⇒ 政策系学部学科・大学院でも・・・
- * 政策デザイン、政策キャリア形成のためのインフラは極めて問題と言わざるを得ない。
- * その一方で、政策キャリア志向は確実に高まっている。

2) 新しい動き？

① 所属機関や物理的場所を越えたコラボレーションの動き

* 「新しい公共の担い手」

* 「公共智民」「分散型政策社会」

⇒ 背景に「情報通信手段の発展」「官の閉塞感」
など・・・

② 東京財団VCASIの事例

* Virtual Center for Advanced Study in
Institution

* バーチャルな研究所による制度研究を政策形成につなげていく試み



3) 議論の材料として・・・

① 日本の政策環境に「後発性利益」はあるか？

* 「つながり」は何らかの可能性を持つだろう

⇒ しかしやはり、政策をフルタイム・ジョブとする場の不足は否めない。

* やはり、大学には一つの期待。だが・・・

* 「政党シンクタンク」の難しさ

② 政策メディアの役割

* 「論文」「政策提言」を核とした、政策人材の「溜まり場」としての仮想空間

* 商業メディアがなかなかできない分野の情報発信を行うことで、「政策社会の厚み」を支える。